

2016年9月15-19日、セントポールで修道会リーダーシップグループの会議がありました。とりわけ昨年9月の黙想会、その後続くオールバニー会議、及び2月のペルー会議での共有経験は基底をなし、何度も考察しました。瞑想的対話で全体像の未来ヴィジョンを描き、結果として善をもたらす望ましい決定を守るというコミットメントを思い起こしました。

聖ヨゼフの姉妹として私達は決して立ち留まらなかったことを思い出し、親愛なる隣人の必要と神の呼びかけに応えるためには、いつも前向きでした。従って私達の対話は既にプロセスの最中にある移行の話で持ち切りでした。

私達はプロセスデザインチームの取り組みを再検討しました。そのズーム(焦点をあて拡大されたこと)は、瞑想的対話黙想会への呼びかけでした。

700人以上の姉妹達はその瞑想的対話黙想会に参加し埋もれている可能性を省察した賜物を確認しながら、私達も又、時間を取ってそれらの可能性を祈りの内に熟考しました。さらに、全ての黙想会完了後に行われる11月の修道会相談会の準備に出席し、2017年4月セントルイスで開催される臨時総会の詳細を決定しました。

私達は、修道会召命事務所シンク・タンク(政策や戦略の策定を行う所)から召命オフィス統合の可能な提案報告を聞き、検討しました。召命と養成に関して修道会と共に前進することは、意図的で肯定的なので修道会召命事務所にそのプロセスを更に続けるよう指針を与えました。

私達は、教皇庁使徒省(CICLSAL)との対談を控えています。以前の使徒座訪問の間の本会訪問後のフォローアップを話し合いました。Srs. メリー マッケイとメリーアン レイニングとジーン ウインセクが10月18日CICLSALの代表者と対談するため、ローマへ向かいます。これは真の対話の機会であると思っています。従って私達は、私達が何者であるかの豊かさを共有する機会として臨みます。

アーカイブの設置場所をセントルイスのカロンデレットに決定し、そのプロセスや日時決定など検討しました。文書保管係は、その統合にあたって職務を続けていくので10月にオールバニーで会議を持ちます。

寄贈者や友人に贈られる修道会の定期刊行物「カロンデレット」は重要だと肯定し、2017年春に、他の版を出すことにしました。又、電子版による可能性を探索し、将来テクノロジーによる出版を考えるよう修道会コミュニケーショングループに依頼しました。

10月に行われる修道会財務担当者会議のために、私達が修道会全体の財務状況を把握できるよう指示を与えました。

セントルイスとロサンゼルスリーダーシップチームは、2013総会の呼びかけ『新しい目で協同すること（パートナーリング）』の応答に対して、彼らが使徒職でしていることを分かちました。

私達は一致の経験を深めたので、神が招いておられる未来へと自由に進むことから私達を妨げる物語は同一のものであると分かり、これらの物語に対処する方法を話し合いました。

ここ数年明らかになってきた使徒職の可能性がります。以下のニーズに呼びかけられていると思われるシスターは、短期間であっても機会はまだ続いています。

- エル・パソのプログラムで南境界線に到着する移民達を援助する使徒職
- ウガンダ、グルでのミッション——セントルイス管区のミッション
- ハワイでケアを必要とするシスター達と共に居合わせるニード

多くのシリア人難民達が避難所と安全を捜しているニーズに応答する願望も討議しました。

これら全ての討議と決定は大変で、時には緊張感もありましたが、楽しい時もありました。セントポールのリーダーシップチームはミシシッピ川の川岸のニコレット・アイランド・インですばらしい夕食をご馳走してくれました。私達はセントポールのシスター達とコンソシエートにも会い、会食を共にし、生き生きとした会話の時を持ちました。CLGの三人のメンバー、Srs. バーバラ ドレイア、サリー ハーバー、スザン ハブローは、CSJサロン部分のパネルとして参加しました。キャスリーン大学に於ける一年生のための午前中の体験です。彼らを招き、聖ヨゼフ会のミッションとカリスマに惹きつけるのです。出席している私達の多くは、使徒職を分かち合ったシスター達と注意深く関心を持った若い女性達を誇りに思いました。最後に、修道会リーダーシップチームの一人ひとりリエゾンとして関わる人々と共に管区リーダーシップを夕食に招きました。私達が戻って来ると、パッカーズ・バイキングフットボールの試合を熱心に見ていました。（異なるチームを応援したとしても！）

ペルーのリーダーシップによって祈りと儀式、そして従来の方法を使って深い亀裂の上に歩道橋を建設するペルーの農民たちのビデオが用意され、関わりの必要性及びこれらの絆を築くのは何なのかと日々の瞑想へ私達を変えました。

必要時の世界奉仕のため、かつての姉妹達がしたように、私達自身も一緒になって対応し続けます。一緒になって未来へと導く神の声を聴き、一緒になって応答します。修道会にとって善となる方法で奉仕する一方、地元の地域で私達の責任を認識します。

私達の経験は、私達が一緒に過ごした時を紡ぎ合せたサラ・トンプソンの歌の歌詞の中におそらく反映されます。

“呼吸によって、血によって、体によって、霊によって... 私達は皆一つである！”